
~ 新バイオハザード乱入物語 ~

新ネビル中尉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『新バイオハザード乱入物語』

【Nコード】

N9499N

【作者名】

新ネビル中尉

【あらすじ】

この小説は『バイオハザード 乱入物語』の続編です。

ある日隆太と真治は学校の帰り道、バイオハザードと記された謎のカセットを拾いゲーム世界にクリスとレオンとして洋館事件前のラクーンシティに乱入する。

洋館から始まりキジュジュまでのすべて事件を解決したとき、やがて彼らは真実をえる。

バイオハザードをかける少年達の愛あり笑いあり、そして戦闘ありの Comedy 小説ここにあり！

〈退院後〉（前書き）

しばらくパソコンが壊れて更新できず迷惑をおかけしました。
この小説の前身バイオハザード 乱入物語も覗いてみて下さい。

〜退院後〜

病院を無事退院！

帰ってきました俺クリス。（隆太ね）

いやぁー長かった長かった。

数カ月前、ジョイセフの銀行で撃たれから小説自体の更新も止まったからびびったぜ、、、

さて、俺は今グラサンウエスカーのまえでかなり激しく叱られてます。

新しくSTARSに入ってきたリチャードやレベッカにかっこつけてヘリの運転を見せてやったら未整備だったもんで離陸する前にプロペラがとれたぜい（、、、ゞ

でもいいじゃないか、本体無事なんだから（笑）

でもそんな顔は微塵も出さない

。下手に出したら最後、何かの生体実験に送られるからな。

まあこいつには10年後のキジュジュ自治区でBSAA総員でタコ殴りにしてやる、、、

さあ、現実世界から入り込んで来たクリスの長く恐ろしい日が始まって行くのでした。

〜洋館事件開始まであと5ヶ月と3日です〜

〈退院後〉（後書き）

時間はかかりますが絶対に止めませんので見放さないで下さい、お
願ひしますm（）（）m

く歴史が変わる時く（前書き）

銀行強盗事件で撃たれ、病院に入院していたクリスが帰って来た。

久々にラクーンシティ警察署に出勤して来たクリスだが・・・

〜歴史が変わる時〜

「クリス！なんだこの報告書は！」

あゝまた始まった。現実世界にいた時は理科の報告書書くの完璧だったのになあ。

「お前は字が書けないのか？スペルミス、読めない字、挙げ句の果てに提出日が一週間過ぎた今日！」

あゝあ、なんでクリスって報告書書くのにがてやねん（　　）

「こんなことでは今日新しく入って来る新人に示しがつかんど。」

えっ新人来んの？レベツカはもういるよ。

「ただ誰ですか新人って？」

バリーやジルは目を輝かせている。

「紹介する。レオン・S・ケネディ巡査だ。」

なんだレオンか・・・はあ！レオンだって！？

「失礼します。」

オフィスのドアを開けてレオン（真治）が入って来た。

ジルやレベッカからは歓喜の声が聞こえ、バリーを含む男性陣からは落胆のため息が聞こえた。

わりとイケメンなんだな、レオンって。

「諸君、静かに。彼は警察学校でトップの成績を残し私とエンリコ副隊長自ら抜粋して来た。所属はアルファチームに決定する。クリス、近接戦闘術を彼に教える。バリーは火器の知識と扱いを、ジルは心理面から鍛えるんだ。」

よりによって俺かい。しかもアルファチーム・・・

「あと、クリスは引き続きレベッカの教育もしてくれ。」

はい無理いゝ。むりむりむりいゝ。

レベッカを教育するのさえ退院後の俺にはキツイのに真治もだる？死ぬぜ俺。クレア差し置いて死ぬぜ。

「無理です、不可能です。どっちか一人をお願いします。ブラヴォーのエドワードに任せれば・・・」

「ジョークはやめたまえ。お前のは面白くない。」

はい拒否されました。最後まで言わせてもらえずに。

「分かりました。よしじゃあさっそくランニングしにいこう！ついでこい。」

「了解！」とレオン（真治）

「ラ、ランニングですか!?!」
とレベッカ。

「そうさ。ナイフバトルにも体力は必要だぞ。」

こうしてバイオハザードのすべてを知り尽くした隆太と真治によって一つ歴史が変えられたのであった。

く歴史が変わる時く（後書き）

後日談

クリス「なんでレオンがSTARSやねん。」

レオン「なんかラクーンシティ事件当日に配属されようと頑張ってたらグラサン野郎が来てこうなってた（笑）」

クリス「まあいいけどさあ、なんか違和感が。」

レベッカ「あのくさつきからなにを話していらっしやるのですか？」

クリス& amp ;レオン「い、いたの!？」

レベッカ「はいく、全部聞いてしまいました。」

クリス& amp ;レオン（どうどうする？レベッカにだけ本当の事を話すか．．．。）

さてさてこの先どうなることやら。

く洋館事件に備えてく（前書き）

STARSに入ってくるはずもないレオン（真治）が登場してバイオハザード世界のストーリーは大きく加筆・修正された。

レオンを迎えたアルファチーム及びブラヴオーチームはクリスの提案で新しい訓練を開始する。

．．．それはUBCS隊員も受ける対B・O・Wトレーニングであった。

く洋館事件に備えてく

「おいクリス！なんだこの訓練は！？化け物でも相手にするのか？」

血の気が多いジヨセフと親友のバリーが叫ぶ。

他の隊員達もだ・・・。

しかしレオン（真治）とレベツカ（レベツカには結局すべての事情を話した。）はやる気満々で歴戦のSTARS隊員を圧倒していた。

今やってるのは射撃訓練。しかし普通ではない。キルハウスの中を走り抜け、飛び込んでくる人形を木っ端微塵にショットガンやマシンガン、ハンドガンでぶっ飛ばす。

（あんたらのためにやってるんだ。これやらないとほとんど死ぬぞ。）

ウエスカーの野郎が見えない。

まあ俺達に感ずかれたと思ってんのかね。安心しろ。ウエスカー。後でタコ殴りにしてやる（へ）

今日の訓練は終わり。みんな解散です。疲れたく。そうだ、俺だって疲れるんだ。文句言うな。

とりあえず今日は家へかえる。警察署から長い長い道のりを自転車で爆走。

…よほどの筋トレ馬鹿だったんだなあクリス。

マイホームへ到着。

「ただいま〜っと。」クレアが先に帰宅してますねえ〜。いつ見ても美人なんだよなあ〜。

さすが我が妹。実際は他人やけどな。

「お帰り、兄さん。」よほどクリスが好きだったのだろう。仕事から帰ってくるたびにベタバタと引っ付いてくる。

俺もけして嫌ではないが夏は勘弁して欲しい。暑い（熱い）のだ（
）

「今日の晩飯はなんだ？」

「もう食べるの？ケンタッキーを8ピース買って来たわ。」

またか、、、なんでこうアメリカ人はカロリーの高いものばかり食べるんだ？

っというような顔は微塵も出さない。

前にちよつとしたことでケンカをしたらいろんなものは飛んでくるし、飯は作ってくれないから泡や餓死する寸前になった。

美味しくいただくとするか。

今日は後でケンドガンショップに銃を買いに行くとしよう。
すべては洋館事件に備えて、だ．．．。

く洋館事件に備えてく（後書き）

夕食後

クリス「やあケンド！なんかいい火器入ってるかあ。」

俺の話しやすい数少ない友達だ。

ケンド「クリス、あんたは運がいいぜ。見てみるよ。．．．バレット、対物ライフルだ。他にもステインガー、デザートイーグル、M4、ベネリM3などが入ってる。」

クリス「すげえな、じゃあM4を五挺とバレットを一挺、ガバメントを二挺に手榴弾を30個、ステインガーも一挺、あとM203を二挺頼む。」

ケンド「たくさんかってくれるのはありがたいがどうするんだ？ラウン市警は戦争でも始めるつもりか（笑）？」

クリス「まあいろいろあるのさ。ああそうだ、45口径の強装弾を500発と5.56弾を1500発、ステインガーミサイル3発、グレネードランチャーのHEAT弾を20発付けといてくれ。」

ケンド「わかったよ。はいこれ（重っ）。」

クリス「ありがとう、金は置いておく。また来るよ。」

ケンド「無理するなよ。」

さあもう少して事件が幕を開けます。お楽しみに）
（

「猟奇殺人事件」バイオハザード発生（前書き）

アークレイ山脈での一人の女性の失踪を切っ掛けに始まり、バラバラ遺体が発見されたとの報道が日常的に放送される日々（クリス（隆太）とレオン（真治）はバイオハザードの発生を確信する・・・）。

市警が慌ただしく調査する中、STARSへ恐怖へのチケットが渡されようとしていた…

「猟奇殺人事件」バイオハザード発生」

「…先日から報道しているアークレイ山脈での猟奇殺人事件及び失踪事件ですが、今日もまた一人30代前後の男性が…」

とうとう始まってしまった…。あらかた対B・O・W訓練は終わつたけどねえ。心配だ。

真治どんな顔してるかなあ…。うわっ、半泣きやん。こっちみるんやない。

レベツカは？…顔青いなあ。ガッツやガッツ！

他の隊員はやる気満々やなあ。なんも知らからか？

とりあえず今は出動待機命令が発令されて警察署から出ることが出来ない。

相当暇ではあるがこの時間を使って俺はケンドの店で買った武器を隊員達に渡す。うちの隊はガンマニアが多いからなんの不審もなく受け入れられた。

PMの俺はM4とサムライエッジ（弾は強装弾）と手榴弾4個。
ジョセフはベネリに手榴弾2個。

レオンはVP70（弱装弾）とM4（M203を付けた）
バリーは手榴弾だけをもらっていった。レベツカはバレットを選択し（20mmだぜそれ…）入隊祝いに俺がやったグロツク18Cを

サイドアームにした。

他の隊員達もそれぞれ好きな武器を取っていった。

深夜0：24分、とうとうマスコミからの批判を受けたアイアンズくそ署長はブラヴオーチームのアークレイ山脈への出勤を命じた。

目的地はあの洋館。

泣くなレベッカ…黄道特急でビリーと言う人についていけばいいんだ。

こうしてクリス達はアンブレラとの抗争に身を投じて行くことになる。

「猟奇殺人事件」バイオハザード発生（後書き）

ブラヴオーチーム出勤後

クリス「行っちゃったな、ブラヴオーチーム…。」

レオン「うん。俺はどうなるんやろう？こんな設定ゲームじゃなかったで…。」

クリス「そっやなあ。」

レオン「ブラヴオーチームが無事やったらいいけど。」

次号、アルファチーム出勤！お楽しみに！

「ゲームタイトル BIOHAZARD」（前書き）

ブラヴォーチームを送りだしてから半日、チェックポイントを通過したとの報告をつけた直後に連絡が途絶えてしまった。アルファに、いやラクーンシティ全体に衝撃が走る。

市警の署長、アイアンズはブラヴォーチーム救出ためアルファチームの派遣を決定。

今回の騒動でより一層市民の不安をあおぐことになりそうだ・・・。

ゲームタイトル BIOHAZARD

「こちらアルファチーム、生存者は発煙筒を使って位置を知らせよ
…駄目だな。」

ヘリの拡声器を使ってバリーが呼びかける。

まあ無理やな。ほとんどの奴らは洋館で出会ったからね。
あとはジルが黒煙を見つけてくれれば…

「見て、クリス！」

来た。見つけたぜい！

「よくやったジル。ブラッド！あの地点へヘリを降ろせ！」
とウェスカー。作戦が順調に進んでさぞかし嬉しいだろうね。

さあとどうついたぜオープンニングムービーの場所。当然ケビン・
ドゥーリーの死体以外はありません。

「おい！こっちに来てくれ！」

出た。(> <)いまから犬のシーン。

レオンと顔を見合わせ(OMらしい)ジョセフの援護体制に入る。
案の定、ジョセフに一体のわん公が飛び掛かった。

俺 & amp; 真治「うおおおお！」

二人してM4乱射。ジョセフの死は食い止めた。

直後ブラッドがヘリで逃走。

逃げんなあ。臆病者！

「戻れ！ブラッド！！」

ここは原作通りにやっておこう。

おや？さっきのわん公が復活しているぞい。数も増えてるなあ。仲間呼ぶなんて卑怯だぞ。

「ジル！あの館まで走れ。」

さっそく走り出しました。臆病者以外全員…。

バリー、ジル、グラサン（ウエスカーね）は間に合いそうですが、俺、真治、ジヨセフは間に合いそうにありません。

ほら、しめ出された。

三人でホールの隣の食堂の窓にアタック！更に休む間もなく暖炉の横のドアをスルーし食われそうなケネスと合流。四人でホールへ戻る。

そこには予想通りジル、バリー、グラサンが。

グラサン野郎はめっちゃめっちゃ渋い顔をしていました。

ザマ〜みやがれ（へ〜）

「で、これからどうする？」

誰も話題がでないようなので振ってみました。

少し間が空いてからグラサン

「全員、この洋館内を調査してくれ。どこかに裏口があるはずだ。」

私はここを確保しておく。」

やはり地下の研究所へ俺たちを連れていき自分はウィルスを使うつもりか…。

なめんじゃねえぞ。

でもまあここは純粋な隊員として言う事を聞いておくか。

ピアノの部屋でレベツカと会う約束もしてるしな。

さあ行くとするか。ジル、バリーは勿論の事、ジョセフケネスも生き残り、レオンまでいやがる。

俺と真治がいる限りもう誰も死なせはしねえぜ！

しかし、この後洋館事件は予想外の展開を見せるのであった…。

くゲームタイトル BIOHAZARDく（後書き）

クリス「さあこの小説をご覧いただいているみなさん！俺達は新たな局面を迎えました！」

レオン「今、我々は洋館事件に面していますがその登場人物は転生者で物語の先を知っています。」

クリス「そして今回はあと二人、転生者を募集したいと思います。」

レオン「選ばれた転生者は洋館事件以降からこの作品に登場していただきます。」

クリス「応募方法はこの作品の感想部分に転生者の名前、年齢その他追加項目を書き込んで下さい。」

クリス& amp; レオン「皆さんの応募、また感想をお待ちしていますm（）（）m

〈知らない未来〉（前書き）

クリスとレオンの活躍により、一人の犠牲者も出さずことなくアルファチームはアークレイ山脈にある洋館にたどり着いた。

ここまででは順々に危機を回避してきたクリス達だが、原作にはない未来が待ち受ける…

知らない未来

洋館内に激しい銃声が響き渡っている。

俺と真治が真の目的を偽って提案した対B・O・W訓練の成果で動きの呪いゾンビ達は瞬く間に瞬殺されていく。

すげえな(････)

俺とケネスを先頭にジルが続き、ジョセフ、レオン、バリーといった順に進む。女性のジルを守るような布陣だ。

「よし、ここだ。」ケネスが言う。

今いるのはピアノの部屋の前だ。

本来ならレベツカがいるはずだが…

いない!?

真治も不安げな顔をしている。

作戦を変更する必要があるな。めんどくさいえ。

「みんな、提案があるんだ。今俺達は六人いる。そこでこの分隊を二人ずつの三つに分け、一つはホールへ戻り、あとの二つは裏口の搜索を続ける。その際、いなくなったウェスカーと他の生存者の搜索も行う。どうだ?」

来い、来いっ!

「異議なし。」
とバリー。

さすがだぜあんた。

他の隊員も賛成のようだ。

これでレベッカが探しやすくなる。

数分後、俺達は各自散開し、再び洋館内に散っていった。

あれからしばらく立ち、俺と真治は寄宿舍にたどり着いた。
ジル& amp; バリー、ケネス& amp; ジョセフチームが到着す
るまではしばらくかかりそうだ。

施設に入り、進んで行くと俺達はあまり見たくないものをみた。

ゾンビ化したフォレストとエドワードがまだ生きているリチャード
を食っているのだ。

(関西弁を使える雰囲気じゃねえ！)

そしてそのすぐ隣にはレベッカがいた。

「こっちへ来い！」

言うとレベッカは近づいてきた。

「怪我はないか？」

と声をかけた瞬間、

「Bang！」

一発のホローポイント弾が俺の上半身に直撃した。

またかよ……。

レベッカや真治がなにか叫んでいるがもうあまり聞こえない。足からガクツ、と倒れ込む。

銃を使う敵なんていないはずや！どこで間違えたんだ！？

しかし、近づいてくる集団をみて俺は確信した。

(U・S・S・か……)

く知らない未来く（後書き）

レベッカを救出したクリス達が大ピンチに！

果たしてクリスは無事なのか？

彼等を襲う敵の正体とは？

乞うご期待（> <）！

↳サイド レベツカ&amp;レオン(前書き)

クリスを連れ去られたレベツカ達の救出劇1です。

少し短めですm┐┐m

「サイド レベツカ&レオン」

「撃ちかえせ！レベツカ。」

「でも…」

「いいから撃て、治療ならこいつらを倒してからでもできるだろう
！」

「分かりました！」

レベツカはクリスにもらったG18Cを撃つ。

二人は倒れただろう。

真治もグレネードランチャーで敵を釘付けにしている。

(なんとか守りきれるかもしれない…)

ふとそう思った途端何かがレベツカ達の所へ飛んできた。

「スタングレネードだ、伏せる！」

キイイイン！！

辺りが強烈な光りに包まれやがて闇に変わった・・・

「おい、起きろ。」

レオンの声が聞こえる。

レベツカは目を覚ました。

何があつたのかを考えて、思い出した。

「クリス教官は!？」

周りを見るとクリスの姿はなかった。

レオンは答えない。

「そんな…」

レベツカの胸に絶望が込みあげてくる。

「死んだ分けじゃない。それにお前のせいじゃない。ただ問題はあいつがお前を守る為に受けた三発の銃弾だ。」

クリスの悪い所だった。

あの人はいつも体を張って他人を守る。ジル先輩の時のように。

ただあの性格では自分の命を削ってしまう。

だから私が彼を守ってあげなくてはならない。

それがメディックの仕事なのだから。

くサイド レベツカ&レオンく(後書き)

真治

「今思ったんだけどさあ、レベツカって隆太の事好きだろ？」

レベツカ

「な、何を急に言い出すんですか！そんな事ないです」

真治

「バレバレだぜ。まああいつもお前の事は気に入ってると思うよ。

(部下としてな)」

レベツカ

「だからそんなんじゃないって…ていうか教官にはジル先輩がいるじゃないですか。」

真治

「はいはい、わかったよ。まあがんばれ。」

レベツカ

(真治のいじわる…)

「クリスを解放せよ！」（前書き）

拉致られたクリスを追跡すべく真治達は洋館ことアークレイ研究所を疾走する。

他の生き残りメンバーにも連絡をいれ、STARS総出で救出に向かう。

そして真治はあることを思いつく。

「アンブレラの部隊は未来知らんのちゃうん？」

「クリスを解放せよ！」

「over！」

生き残りのメンバーに報告を終えた俺（真治）はさっそく進みだす事にした。

だがあてがない…。

「多分俺ぜってー後でジルさんに殺されるぜ…。」

無線の音がやたらに低かった。多分クリスが撃たれたつえに連れ去られたからだろう。

くそっ…

と愚痴つてても仕方がない。

ていうか今この瞬間にも腐った死体やハンター共が押し寄せて来ているのだ。

「くそっ、くそっなんて数だ！少なくともこの異常な量は日本版の難易度じゃないな！」

文句をかましつつ俺はM203を発射する。しかもHE弾。対戦車用だぜそれ（笑）

瞬く間に客室002号室近辺は静かになった。

おや、レベツカの表情が険しい、何か？

「…あのですねえ真治君？アナタ達外から来た人達の事は知らないけど、私達が住んでいるこの世界をゲーム世界みたいな言い方する

のはやめて。」

「え、ええ！…ごめんなさい。」

「うん、許す。」

こわっ、レベッカこわっ。夜中であって話しかけて来た渡部さんよ
りこわい。

っと気を取り直してまた進む。

(何かいい方法はないのか？クリスにコンタクトをとる事ができ
ば…)

「よっしゃ！これや！！」

レベッカがびっくりしてます。

「関西弁ごめん。いい方法思いついた。」

「何、いい方法って？」

さっき気付いたのだが弾薬が全然減っていない。MGSの無限バン
ダナ現象だ。

だとすれば俺達の体には「ナノマシン」が入っているはず…

「じつは俺、声を出さずにクリスと話せるんだ。」

「どっやって？」

「ナノマシンだ（えっへん）」

「ナノマシンってまだその技術は研究中よ。」

「MGSの世界は進んでいるんだよ。まあ見てなさい。」

とはいったものの、どうやって無線画面に入るんだ？寝る？目を
つむる？想像するの？

試しにスネークの格好を真似てみよう。

しゃがみ姿勢、耳にてを当て、「周波数は140・80」と唱えた。

P P p p p p p ! P !

つながった〜！

「…だ、誰だ…？」

「お前の愛しの真治君だ。」

「真治…よかった無事だったのか…ぐっ！」

画面の向こうでクリスは血を吐いているようだ。

「大丈夫か？」

「……………」

「聴いてんのか！？しっかりしろ！」

「…ああ。」

「水槽の部屋は過ぎたか？そこで合流する…？ちゃんと待ってくれ。」

何も言わない真治を見ているのに飽きたらしく、レベッカは死んだハンターの腹をトランポリンにして遊んでいた。

「やめなさい、レベッカ。」

即座にストップする。

「とりあえず水槽の部屋の前についたらSENDしてくれ鳴らすだけでいい。」

「…了解。」

「じゃあな。」

俺は通信画面を切った。

「何か分かりました？」

「ああ、バッチリだ…」

「アルファチームの真治、じゃねえレオンから全隊員に報告。クリスが見つかった。」

俺は殺人魚が待ち受ける部屋へと足を進めた…

くクリスを解放せよー」（後書き）

真治

「いやー、途中メタルギアの世界が混ざってしまった。」

レベツカ

「何なの？メタルギアって？」

真治

「また今度話すよ。それより皆さんにお伝えする事があるだろ、レベツカ？」

レベツカ

「ああ！そうだった。皆さん、先日募集した新しい転生者でしたが、予定よりたくさんの方が集まったので少し早いですが、洋館事件から徐々に全員の転生者を出すことにします。」

真治

「多分不都合がなければ転生者達はキジュジュ事件までに全員活躍の場があるので期待してください。」

レベツカ

「尚、転生者応募は締め切った訳ではありませんのでまだまだご応募していただけます。ですが今回の条件は他のゲーム世界のキャラクターです。」

レベツカ&真治

「皆様のご応募お待ちしております！」

〈新たな転生者〉（前書き）

アンブレラにクリスを連れ去られたSTARS隊員達はレオン（真治）の指示で巨大水槽のある部屋へ向かう…

そして、またまたややこしい展開に…

く新たな転生者く

ジル、バリー、ジョセフ、レベッカ、ケネス、そして俺が揃い例の巨大水槽のある部屋の前に辿りついた。

いまさつきクリスに連絡した限りでは、アンブレラのガスマスク野郎達はこの部屋を通過中らしい。

ドアに爆薬を設置し、突入準備は完璧だ…

全員が息を整える。すると突然、水槽の部屋から小銃の発砲音が聞こえてきた。

クリス（隆太）「…真治！…備は万端だ！速く…いい！」

隆太が誰にも聞かれるおそれのない体内通信で俺に呼びかける。

レオン（真治）「はいはい、ちょっと待っててくれい。さっきのインター戦で腰強打した…」

クリス「んなこたあどうでもいい！速く！」

わあ偉い怒ってる…まあ普通か、、、

俺は爆破係のジルに合図する。

激しい爆音と共に、扉が消し飛んだ。

更にスタングレネードをお見舞い…やり過ぎじゃねジル、かわいそうだよ…

バリー& amp・ジヨセフ& amp・俺& amp・少女レベッカね「おらああああ！！！」

俺達の357が、グレネードランチャーが、バレットがそこかしこに火を噴く。

原作どうりにその部屋にいたネプチューンと呼ばれるサメの化け物が肉片に変えられていく。

みたか化け物！ゲームの時とは違って今回は強力な銃があるんだ！いい気味だぜ。

アンブレラの隊員達もささず肉片に変えてやりますとも。サメに必死で俺達の対応に遅れたのが運のつきだな（笑）

サメもアンブレラも全滅する直前、なぜかUSS隊員を二名残してクリスが制止した。

クリス「もう撃つな！やめろ。」

なぜなんだクリス？早く殺らせてくれよ…（俺恐っ）

クリス「この二人は俺をかばってあの時殺されるのをとめてくれた。そして今銃を俺に返してくれたのもこの二人だ。これがなけりやあサメ野郎に殺られてたぜ。」

あーなるほど、敵ながら命の恩人ってやつか。

クリス「こちらがラーズ・アレクサンダーだ。この隊の隊長でかなり機動力が半端ねえ。」

隆太が07と肩のプレートに書いた人物を指差した。ガスマスクのせいで顔の表情はわからないものの、「今後お見知りおきを」と言う声には人情深さと威厳に溢れていた。

クリス「そしてこちらが中川、したの名はノーコメントらしい。」

「ウっす！」とこちらは割と気さくな感じだ。

クリス「彼らもここで自社がバイオハザードを引き起こしているとは知らされず、ただの演習と言う目的で投入されたそうさ。それも
ある男に……」

俺達にまた新たな仲間が加わった。

（ちよつと生存者多くね……）

〈新たな転生者〉（後書き）

クリス「イヤー、久しぶりの更新だったもんでかなり今回テキストだったな筆者：」

レオン「このテキストさは今回だけにしたいね。とそれより今回新たな仲間が増えましたよ皆さん！なんでも皆さまから応募していただいたキャラですので大切に使用させていただきます。」

クリス「またほかのキャラクターも随時出していく予定ですのお楽しみに！」

本当に今回テキストで申し訳ありませんでした（<―>）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9499n/>

～新バイオハザード乱入物語～

2010年12月23日01時09分発行